「繋がり・関わり」を継続したＰＴＡ活動

～新型コロナウイルスの収束、およびＰＴＡ活動の本格的な復帰～

北海道札幌市立きくすいもとまち幼稚園
令和７年度会長　平　　優

１．はじめに

北海道札幌市白石区は、札幌市の東部に位置しています。住宅地として発展し、バスだけではなく地下鉄・ＪＲも通っていて交通の便も比較的良好な地域です。公園や緑地なども多く、散歩やサイクリングに適した場所もあります。工場や倉庫も点在しているため札幌の物流や軽工業の拠点でもあり、札幌コンベンションセンターや国際協力機構札幌国際センターなど海外との交流拠点もあるなど、人の活動が活発な地域です。

２．園の概要

本園は、豊平川のすぐ近くにあり、平成２年に開園し、令和７年４月時点では39名の園児がおります。ＰＴＡ活動も、少ない園児数であることを生かし、保護者の皆様との積極的な関わりの機会を設けています。

近隣の小学校や保育園、町内会など地域の皆様とも交流をもつ機会が多く、たくさんの人に見守られて園児たちはのびのびと生活しております。

園の教育目標は「望ましい環境のもとで、人間性を培い、たくましく生きる、心豊かな子どもの育成」です。

○よくかんがえ　やりぬく　こども
　～自分なりに考える力、話をよく聞き、思いを表現する力
○なかよく　やさしい　こども
　～人と関わる力　思いやりの心
○たくましく　げんきな　こども
　～たくましい心、元気な体

園のマスコットキャラクター
『ネギーちゃん』

また昨年度、きくすいもとまち幼稚園では「一人一人が自分の力を発揮し、互いに育ち合うための環境の構成と援助」について『北翔大学 教育文化学部 教育学科准教授 工藤ゆかり氏』をアドバイザーに迎え、隣の厚別区にある札幌市立あつべつきた幼稚園と合同で研究を進めてきました。

今年度は「子どもの『やってみたい』があふれ、未来につながる幼児教育」という主題のもと『藤女子大学ウェルビーイング学部子ども教育学科教授　大室道夫先生』をアドバイザーとして迎え、幼児教育と小学校教育の円滑な接続について研究を進めています。それに加え、札幌市の公立幼稚園として初となる幼稚園単独のＣＳ(地域の子育ての拠点となるような実践・発信を行う活動)も本格的に始まり、子供たちにとってより良い環境づくりに繋がるのではないかと思っております。

3．ＰＴＡ活動について

ＰＴＡ組織は、会長１名、顧問１名、副会長２名（Ｐ１名、Ｔ１名)、書記・会計２名ずつ、監査２名を執行部としています。他の保護者の皆さんも各委員会に所属し皆で活動しています。

○学級委員会　　○手作り委員会　　○環境委員会（資源・古着）

現在のＰＴＡの大きな活動には、年に２回ほど開催される「手作り市」、秋ごろ開催される「こども縁日」があります。また、各委員会の打ち合わせと保護者同士の交流の場として、「合同委員会」も行っています。

＜手作り市＞

手作り委員会所属の有志の皆様により、エプロンや小物を制作し、園の保護者へ販売しております。

例年は布類を使ったエプロンや小物・人形が主体となっておりましたが、一昨年より「作りたい物を自由に作る」というスタイルも取り入れ、ビーズやレジン、粘土を使った小物が制作・販売され、大好評でした。

特にエプロンは安価なだけでなく、子どもがひとりでも着用ができるような簡単なデザインになっているので、毎年多くの皆様にご購入いただいております。

また、北海道の幼稚園の特色といたしまして、長靴等の冬靴にかぶせる「カバー」や、手袋を落とさないための「手袋紐」も手作りされています。オリジナルデザインのものだと伺っており、代々作成されてきています。冬期間の外遊びに必須のものであるため、こちらも毎年多くの皆様にご購入いただいております。

＜こども縁日＞

毎年10月末に開催され、幼稚園協力のもとＰＴＡ主催で行い、保護者と園児が参加できるお祭り行事です。コロナ禍でも密を避けて開催を続けてきている、大きなイベントとなっております。

昨年度は、園児たちの手作りの魚で「魚釣り」、大きな的に向かってボールを投げる「もぐもぐモンスター」、「スーパーボールすくい」、「ヨーヨー釣り」、「工作コーナー」など、小さいながらも子どもたちが楽しめるような活動も行っております。園児だけでなく、一緒に参加した弟妹も参加することができるよう配慮しました。また、手作り市も同時開催しており、フェルト製の武器や人形、ビーズで飾り付けられた粘土ケーキ、各種アクセサリー、くるくるレインボーという回すとキラキラ光るおもちゃなどが販売されておりました。バッグいっぱいに獲得したものを入れ、最後に園児と弟妹に駄菓子と光るおもちゃをＰＴＡからプレゼントし、こども縁日は終了しました。

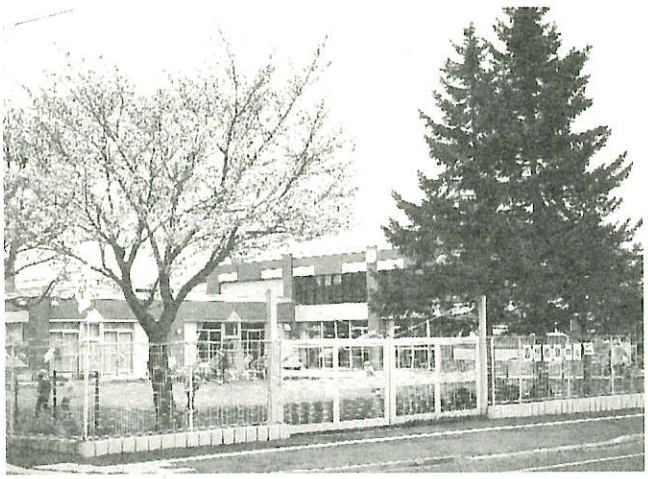
＜合同委員会＞

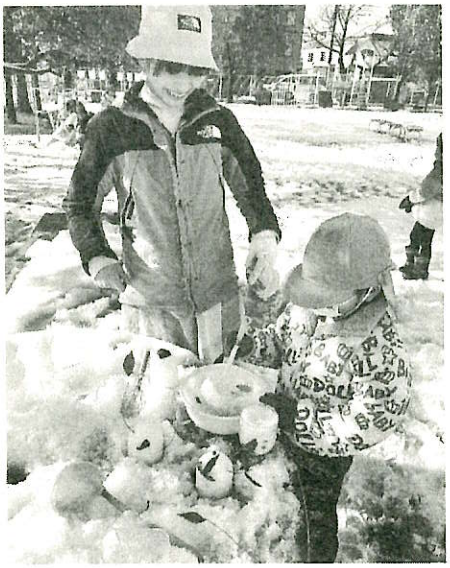
お祭りなどのような子ども主体のイベントとは違い、年に２回、保護者の皆様が子どもたちを預けた後に幼稚園内の１室に集まって、委員会ごとの打ち合わせをしています。それと共に、保護者同士の交流の場にもなっています。同じクラスの保護者でありながら顔も名前もわからないということが多い中、少しでも顔を合わせて交流を深めていきたい方には嬉しい会になるのではないでしょうか。打ち合わせが終わってからも少し残っておしゃべりをしていきやすいように、お茶やお茶菓子を用意して行っています。

４．おわりに

近年、ＰＴＡ活動とはどういったものなのか、本当に必要なのかというお話をたくさん聞く中で、こうした保護者参加型のイベントを続けてこれたのも、保護者の皆様、地域の皆様、園の先生・職員の皆様など、多くの方々のご助力があってこそだと、本当にありがたく思っております。

きくすいもとまち幼稚園でも子供たちのための活動は勿論のこと、保護者や地域の方の「大人の」交流の場としても残しながら、保護者の負担の軽減を考え、ＰＴＡ活動の見直し・スリム化を進めていくことができればと考えております。





親子で一緒に、楽しく学ぼうＳＤＧｓ

～子どもたちの未来のために、ＰＴＡとしてできること～

新潟県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会
会長　大野正貴

①　はじめに

新潟県内の国公立幼稚園は、平成元年（1989年）では当時の新潟県国公立幼稚園協会への加入園数52園、園児総数5,268名でした。しかしながら、平成24年（2012年）８月の子ども子育て関連３法の交付以降から幼児教育・保育の無償化やこども園化が進み、幼稚園の閉園や協会からの脱退が相次いだことで、令和７年（2025年）現在では加入園数17園、園児総数439名と10年余りでその数は激減しています。園数、園児数が少ないながらも、子どもたちへの教育の質を保ち、高めようと、先生方を始め保護者も一丸となって励んでいます。

その中で、子どもたちの未来のためにSGDsの一環として自然を大切にしてほしいという思いから、イベントや体験ではなく、経験で伝えることを目標に全県で取り組んでいるＰＴＡ活動を紹介します。

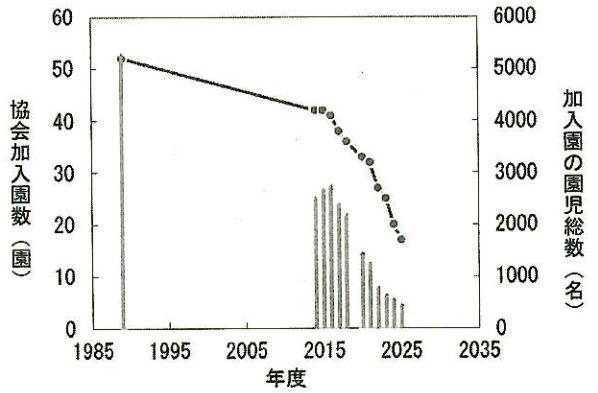


図１　新潟県内の国公立幼稚園・こども園協会加入園数と加入園の園児総数の推移

②　園の概要

新潟県国公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連絡協議会の事務局は、新潟市秋葉区に位置する新津第一幼稚園に置かれています。秋葉区は「花と鉄道と石油の街」として栄えており、花はチューリップ発祥の地、鉄道はＳＬ、石油はかつて日本一の産油量を誇った新津油田です。新津第一幼稚園はこの秋葉区新津の中心にあり、令和３年に創立70周年を迎えました。令和５年度から満３歳児の受け入れを開始し、令和７年度現在の園児数は年長組５名、年少組11名で、21名が在籍しています。年少組11名のうち、６名は前年度に満3歳児として早期入園した園児です。園は新津第一小学校と同じ敷地内にあり、行事等を通して交流活動を行っています。幼小連携として、１年生への入学支援やケア等も行っています。商店街や新津駅、コミュニティセンター、秋葉山などが近いため、散歩に出かけるなど、地域の中での活動も大切にしています。また、近隣園の先生方に公立幼稚園としての公開保育や研修会を実施したり、その際に指針を説明したりと、地域連携の一環として保育の質を高めようという公立の機能も果たしています。

③　ＰＴＡ活動

本県ＰＴＡ連絡協議会では、園数、園児数が少ないながらも全県で一つのテーマをもってＰＴＡとしてできることに取り組んでいます。テーマは「環境にかかわる活動」です。自然保護や環境保全のために、子どもたちの身近なことでできることは何かないかと、各園で取組を考えて、計画を立て、親子と先生で一緒に活動し、取り組んだことについてオンラインで意見交換等の交流を行っています。この事業を持続的に行っていくことを前提にしているため、年少から年長まで可能な範囲でできることに取り組んでいます。子ども

たちは外部講師の方々からの講話を聴いて、自分たちなりにできることややりたいことを実践しています。このテーマでの活動を通じて、少しでも子どもたちの中で、「自分たちで考えることや生きる力を身につけること」に繋がってほしいと思います。

【ごみ拾い活動】

県内13園が、様々な場所でごみ拾い活動を行いました。ごみ拾いは園の周辺や海岸、公園、駅など地域の様々な場所で行い、集めたごみの回収もしていただきました。この活動では、事前にごみ拾いの際の注意事項を保護者や子どもたちに説明しています。例えば、①ごみ拾いは必ず大人と一緒にすること、②拾う時は周囲の車に気を付けること、③拾う時は手袋とトングを使うこと、④生き物の死骸や鳥の羽などに触らないこと、などを伝えています。子どもたちは次第に夢中になってごみを探すようになり、どんなに小さなごみでも見逃さないくらい、大人よりも上手に探して真剣に拾っていました。活動中には「どうしてこんなものが落ちているの？」「誰かがポイ捨てしたかもしれないね。」「どうしてポイ捨てするの？良くないよ。」というやり取りもありました。また、地域の方々からは「ごみ拾いしてくれて、ありがとう。」、「えらいね。」という感謝の言葉や励ましの言葉をもらって、子どもたちは誇らしそうにしていました。自分たちが街のためや人のために役立っていることを認識して、達成感が得られ、環境への意識も育まれたように思います。

図２　園の周辺や海岸、公園、駅などの地域でのごみ拾い活動の様子

【資源回収とリユース、リサイクル活動】

県内８園が、資源回収とリサイクル活動に取り組みました。家庭で出た牛乳パックや食品包装などの廃材を使った工作は子どもたちにとってはお手のものです。この活動では改めて、ＳＤＧｓを意識した取組として捉えています。親子でいろんな飾りつけをして、資源を集めることが楽しくなるようなリサイクルボックスやオリジナルエコバッグを手作りしたり、廃材を使ったリサイクルから作品展、雑巾がけリレーに発展したりしました。エコバッグ作りでは、コットンエコバックに子どもたちが思い思いに絵を描いて、楽しく使いたくなるようなエコバッグを作製しました。作品展では、牛乳パックやプラスチックごみからおもちゃを

製作して、園内でフェスティバルを実施することで、子どもたちに廃材は自分たちが遊べるおもちゃに生まれ変わるという気付きが生まれました。雑巾がけリレーでは、まず家庭から回収した古タオルや衣類を雑巾に再利用できることを子どもたちに伝えることができ、また雑巾がけリレーに発展し、盛り上がりつつも自分たちの使う空間を大切にきれいにする意識の向上にも繋がりました。

図３　資源回収のためリサイクルボックスの設置、オリジナルエコバッグ作り、
廃材リサイクルから発展した作品展、雑巾がけリレーの様子

【教養活動】

また、環境に関わる教養的な活動として、外部講師を招いた講演会、花いっぱい活動、園内ビオトープ清掃整備、絵本の読み聞かせ、子どもたちによる劇、などに取り組みました。講演会では各園で様々な取組がなされ、給食提供業者の管理栄養士の方に幼児期の食育について話を聞き、食品ロス問題を考える機会になりました。また、環境関連分野の方々からごみの分別、リサイクルについて、さらにプラスチック汚染による環境問題について話を聞き、ごみの分別意識が高まったことや海の生き物がプラスチックを誤って食べてしまって苦しんでいることを知り、子どもたちの中で海岸清掃やポイ捨て防止への意識の高まりを感じました。花いっぱい活動では、地域の植栽活動に参加させていただきました。園内ビオトープ清掃整備では、園が管理していたビオトープ池の清掃と整備を保護者で取り組むことで、子どもたちも興味をもち、小さな生き物の観察や自然と触れあうことができました。絵本の読み聞かせでは、保護者が降園前に環境問題に関する絵本や紙芝居（ゴミはボクらのたからもの（絵本）やせかいいちぴったりのおうち（紙芝居）など）を子どもたちに読み聞かせていました。さらにこれらの活動を通じて、海洋プラスチック問題から子どもたちは床を水上に見立てて、散らかしたプラスチックを拾うなどのストーリーを創造した劇遊びに発展しました。遊びの中からも環境に関わるオリジナルのストーリーを組み立てていく子どもたちの想像力に感銘を受けました。いずれの教養活動においても、子どもたちの環境への意識の向上だけでなく、保護者も環境への意識を改める良い機会に繋がっていました。

図４　環境問題に関する絵本や紙芝居の読み聞かせ、花の植栽、子どもたちオリジナルの劇などの教養活動の様子

④ おわりに

新潟県でも県国公立幼稚園・こども園協会加入園と園児数が減少していく中、各園でのPTA活動も今まで受け継いできたようにはいかなくなってきたのが現状です。その中でも「子どもたちの未来のために」できることとして全県で一つのテーマを通して活動してきて、他園の保護者との交流や情報交換を行うことができました。保護者同士のこうした交流を通じて互いに刺激を与えあい、良いと感じた取組や自分の園でもできそうな取組を参考にしつつＰＴＡ活動を考えていくことは、県ＰＴＡの目的でもあり、コロナ禍で失われた活動を別の形で立て直すことができたと感じています。

また、活動している中で、「コロナ以降、子どもたちと一緒に活動できる機会が減っていたので、今回活動できて良かった」、「次年度、早めに日程が分かれば子どもたちと一緒に参加できます」など、参加に前向きな意見も多く寄せられました。子どもたちも、家庭でのごみの分別に熱心になったり、町内会などのクリーン活動に主体的に参加するようになったりと、環境保全の意識が育まれているようです。幼児期のうちにしっかりと、大人になってからも「自分で生きる力」を身につけてほしいと切に願い、子どもたちの未来のために地域の力も借りながら継続していきたいと思っています。

子どもたちの笑顔のために

～できるときに　できる形で　助け合って～

山口大学教育学部附属幼稚園
ＰＴＡ会長　田　口　幸　太

1．園の紹介

本園は、県庁の近くに位置しているにもかかわらず自然いっぱいの幼稚園です。毎日、子どもたちは自分の好きな遊びを見つけ、心と体を目一杯動かし、幼稚園生活を楽しんでいます。

① 園　児　数

現在、各学年１クラスずつ、年少クラスが22名、年中クラスが25名、年長クラスが25名、全園児数は72名です。

② 保育の様子

１学期の保育の様子ですが、たくさん泡を作って流してみたり、お花を使って色水ジュースや料理を作ったりしています。また、園庭にはたくさん実のなる木があり、それらを収穫して食べることも、季節ごとの楽しみの一つです。梅雨の合間には、幼稚園の井戸水を使って、水遊びも始まります。

本園は木曜日だけ午前保育で、あとの平日は14時までの保育です。基本は保護者が送迎し毎日顔を合わせるので、親子の顔が見えるのは、本園ＰＴＡの強みだと思います。また、他のお子さんの性格や好きなことも把握しているので、我が子だけではなく、幼稚園の子どもたちの成長を感じられるのも本園の良いところです。

2．本園のＰＴＡ活動について

① ＰＴＡ活動の軸

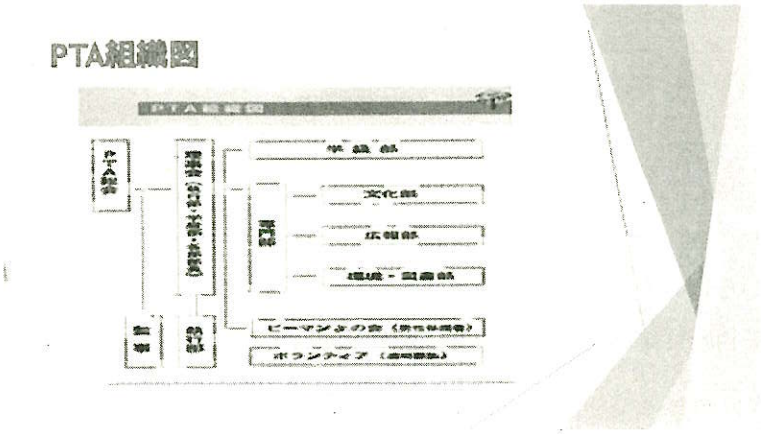
【できる時に、できる形で、助け合って】を軸としています。近年お仕事をされる方も増えてきました。保護者ができる限り負担を感じることなく、みんなで助け合いながら、自分のペースで活動できるということが大切だと思っています。

（孤立して育てるというような）孤育てという言葉もあり、悲しいニュースも目にします。

ＰＴＡ活動を通して、保護者にとっても仲間づくりができたり、幼稚園生活が充実し、卒園した際に楽しい園生活だったなと思えたりすることもＰＴＡ活動の意義の一つと思います。

② ＰＴＡ組織について

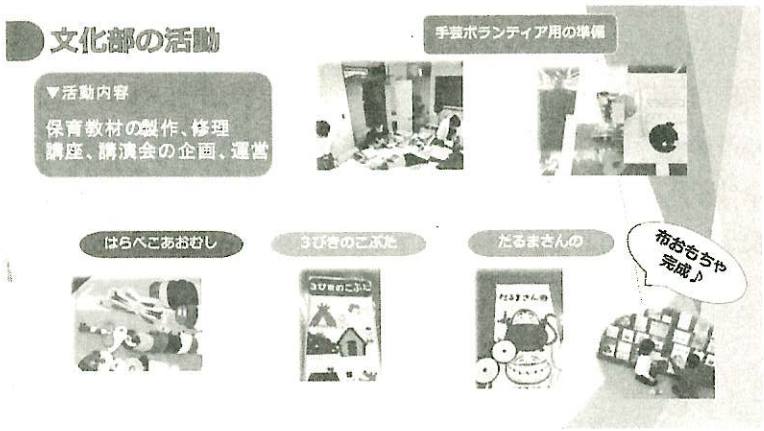
学級部は、各クラス２名で６名。専門部は、各クラス１名の３名ずつで編成されています。



③ 各部の紹介

・文化部の活動について

文化部の活動内容は、保育教材の制作、修理と、講座や講演会の企画、運営があります。



写真は昨年度の様子です。

子どもたちが喜んでくれることを願い、年齢に合わせて、フェルトドーナッツを型紙から製作してくれました。ボランティアを募集し、園で作業できるようにたくさん準備してくれました。細部にまでこだわったとっても素敵なおもちゃを完成させてくれました。

・広報部の活動について

広報部は、広報誌「まなざし」を年間２回（７月と３月）に発行しています。

朝の登園風景を撮影したり、幼稚園まつりや運動会等の行事に撮影班として入ったり、素敵な写真をたくさん撮ってくれています。

広報誌の制作は、まずは誌面の内容と構成を部会で話し合い決定した後、関係各所に原稿を依頼します。取材後は、構成作業をして印刷会社の方とも打ち合わせをします。年度ごとに特集を考えてくれたり、先生方の意外な一面を知ることができて親近感がわいたりと、広報誌は園と家庭をつないでくれています。

・環境・図書部の活動について

環境・図書部は、子どもたちがよりよい環境の中で快適に楽しい生活が送れるよう、園内環境の整備や充実を図ってくれています。

保育中は子どもたちが好きな時にこのコーナーを訪れ、保育後には、絵本の貸し出しが行われ、たくさんの子どもたちが絵本に触れあう機会を支えてくれています。学期ごとに本があるべきところにあるか、破損していないか、そして、年度末には、一冊一冊バーコードを通して、すべての本がそろっているか点検してくれています。

・学級部の活動について

学級部は、学級代表として、保護者間の親睦を図ってくれています。学年活動は統一したものではなく、各学年の特徴に合わせて活動しています。

例えば、年少と年中クラスは、新入園児も多いので、交流が図れるようにと「自己紹介カード」を一覧表にまとめて配布してくれました。

また、幼稚園行事とお迎えまでの隙間時間をうまく利用して、懇親会も企画してくれました。初めての集団生活、保護者も不安でいっぱいの中、とても安心されていました。

・卒業委員の活動について

卒業式に向けて、お祝い品や卒業記念品等の選定をしてくれています。他の部も同様ですが、各部ごとに活動記録を毎年ノートに残して引き継ぎがしてあるので、それを参考に担当教諭と相談しながら活動内容を決定しています。また、極力集まらなくていいように基本はLINE等でやり取りを進めます。

・ピーマンJr.の会の活動です。

ピーマンJr.とは、男性保護者の会です。ＰＴＡのPと男性のMAN、幼稚園のJr.でつけられた名前のようです。6月に今年度１回目の保育参加がありました。当園は、保育参観ではなく、保育参加で、子どもたちと一緒に遊ぶ日です。子どもたちはいつも以上にダイナミックな遊びに大喜びです。保育参加の後は男性保護者ならではの力を生かして、園の環境整備等してくれました。

また、例年夏休み明け前に除草作業や机のペンキ塗り等子どもたちが新学期に気持ちよく過ごせるよう整備してくれています。２週間後の幼稚園まつりでは、事前注文した飲食物の受け渡しをお父さん方にお願いしています。他にも、運動会のテント張り等たくさんの方にご協力いただいています。

・ボランティアについて

本園のボランティア活動は、人が集まらずに困るということはなく、たくさん集まったから他の活動を増やそうか！とか、早く終わって助かったね！となるところがすごいところです。

落ち葉掃きや除草作業では当たり前のように園庭に集い、隅から隅まできれいにしてくださる姿がとても素敵で、その姿を子どもたちが見て、手伝いたいという想いを持つのもまた素晴らしいなと感じます。

３．ま と め

【できる時に　できる形で】をモットーに、負担に感じすぎず、できる人で助け合って補いあい、達成感や嬉しさもみんなで分かち合って活動しています。

ありがたいことに、Ｒ４年度優良ＰＴＡ文部科学大臣賞を受賞いたしました。

先輩方から受け継いだ優しい温かいバトンを、今度は私たちが後進の方に引き継いでいきたい、そんな気持ちでいます。

保護者の意見を取り入れながら、子どもたちにとっても、そして保護者にとっても居心地の良い幼稚園が続くといいなと思っています。